

第 3 回 館山市議会定例会会議録
(第 5 号)

1 昭和63年9月27日(火曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 25名

1番 脇田 安保
3番 田沢 勝信
6番 山崎 雅己
8番 鈴木 勝美
10番 鈴木 忠夫
12番 榎本 春光
14番 小宮 利夫
16番 石井 昌治
18番 日下 君敏
20番 福原 勤
22番 黒川 平治
25番 渡辺 昭夫
27番 林 豊

2番 永井 龍平
4番 庄司二三男
7番 生稻 陸
9番 山口 康雄
11番 神田 守隆
13番 山中金治郎
15番 横溝 功
17番 石井 謀
19番 川名 正二
21番 辻田 実
23番 流山源次郎
26番 近藤 好雄

1 欠席議員 2名

5番 岩村 勝弘

28番 飯田 義男

1 出席説明員

市長 半澤 良一
収入役 渡辺 弘
総務部長 渡辺 秀夫
経済部長 安西 良一
教育委員会会長 山田 教和
教務管理委員会委員 加藤 利
選挙管理委員会委員 鈴木 重司
監査委員 斎藤 明
農業委員会会長

助役 小倉 澄男
市長公室長 錦織 茂
民生部長 小幡 清之
水道課長 鈴木 信一
教育委員会会長 福原 修
教務管理委員会委員 佐藤 澄雄
選挙管理委員会書記長 熊坂 桂一
監査事務局局長 池田 六郎
農業委員会会長 事務局長

1 出席事務局職員

事務局長 川上 義雄
書記 鈴木 哲
書記 加藤 浩一

事務局長補佐 兵藤 恭一
書記 鈴木 修一

1 議事日程（第5号）

昭和63年9月27日午前10時開議

日程第1 議案第40号 昭和63年度館山市一般会計補正予算（第2号）

日程第2 { 議案第38号 館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について
議案第39号 館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事業施行条例の制定について
議案第41号 昭和63年度館山市水道事業特別会計補正予算（第1号）

日程第3 { 請願第3号 国家機密法反対の意見書の提出をもとめる請願書
請願第13号 消費税（新大型間接税）反対の請願書

日程第4 { 認定第1号 昭和62年度館山市一般会計歳入歳出決算の認定について
認定第2号 昭和62年度館山市国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第3号 昭和62年度館山市老人保健特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第4号 昭和62年度館山市ユースホステル特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第5号 昭和62年度館山市学童災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定について
認定第6号 昭和62年度館山市水道事業特別会計収支決算の認定について
認定第7号 昭和62年度館山市国民宿舎事業特別会計収支決算の認定について

日程第5 議案第42号 館山市教育委員会委員の任命について

開 議 午前 11 時 12 分

○副議長（福原 勤君） 本日の出席議員数 25 名、これより第 3 回市議会定例会第 5 日目の会議を開きます。

議案の配付

○副議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議案の上程

○副議長（福原 勤君） 日程第 1、議案第 40 号昭和 63 年度館山市一般会計補正予算を議題といたします。

総務委員会委員長報告

○副議長（福原 勤君） ただいま議題となりました議案第 40 号は、9 月 16 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより本議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長小宮利夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長小宮利夫君登壇）

○総務委員会委員長（小宮利夫君） ただいま議題となりました議案第 40 号昭和 63 年度館山市一般会計補正予算第 2 号に係わる総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る 9 月 16 日の本会議において本委員会に付託されました議案について、9 月 19 日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

以下、その質疑応答等につきまして主なる事項を申し上げます。

まず、歳入において道路橋梁費中、道路整備事業債 3150 万円の補正がされておりますが、その理由について説明を求めましたところ、当初予算では国庫補助金で計上したが、電信電話公社の株券の売却益を利用した起債に変更になったもので、同額の国庫支出金で減額補正している。無利子で借り受け、元金を返済する際には同額の補助金が出るので、

国庫支出金と同じような制度であるとの説明がありました。

次に、歳出において農業振興費中、果樹生産安定施設整備事業補助金 753万8000円について説明を求めましたところ、ビワは市の特産品であるということから、ハウスビワの研究を行って、生産の安定を図っていかうとしている農業研究会の2名に対し補助をしているとの説明がありましたが、さらに希望者があれば補助を行い、若い人たちがこのような補助制度を活用することにより、収益の安定を図ることができるように要望いたしました。

次に、水産業費中、漁船漁業近代化施設整備事業補助金 127万5000円が計上されておりますが、これに関連して、年々漁業施設の改善のための予算が計上されているが、漁業者の増収につながっているのかよく研究をして投資すべきではないかとの意見がありました。

次に、土木費中、河川護岸工事請負費 1160万8000円について説明を求めたところ、かにた川の河川改修工事で、62年度から1220mについて5年間で改修しようとするものであり、本年度は当初250mを計画したが、補助が増額になったことにより、さらに60mを実施しようとするものであるとの説明がありました。

次に、公債費中、地方債元金償還金 2億7256万3000円について説明を求めたところ、62年度末起債残高が約94億8000万円あるが、その中の実質的に利率の高いもののうち、コミュニティセンター用地を取得したときの関係のものについて繰り上げ償還しようとするもので、今後の財政状況を勘案して繰り上げ償還により健全化を期そうとするものであるとの説明がありました。なお、繰り上げ償還について国や県からの指導は特にないとのことでありました。

採決の結果、付託を受けました議案第40号昭和63年度館山市一般会計補正予算第2号については全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、総務委員会委員長の報告を終わります。

○副議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

議案の上程

○副議長（福原 勤君） 日程第2、議案第38号、議案第39号及び議案第41号の各議案を一括して議題といたします。

建設経済委員会委員長報告

○副議長（福原 勤君） ただいま議題となりました各議案は、ともに9月16日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長川名正二君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長川名正二君登壇）

○建設経済委員会委員長（川名正二君） ただいま議題となりました議案第38号、議案第39号及び議案第41号に係る建設経済委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

去る9月16日の本会議において本委員会に付託されました各議案につきまして、9月20日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

まず、議案第39号館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事

業施行条例の制定についてであります。本議案につきましては、館山駅周辺整備調査特別委員会との連合審査を行いましたので、その概要について御報告申し上げます。

第3章の土地区画整理審議会の権限について説明を求めましたところ、審議会の意見を聴かなければならない事項としては換地計画の作成、縦覧されたものについての意見書の審査、換地計画の変更等の意見書の審査があり、審議会の同意を得なければ必要な事項としては評価委員の選任、保留地の決定、換地計画において特別の宅地について特別の定めをする場合、宅地地積の適正化のための過小宅地の基準となる面積の決定、借地地積の適正化のための決定、換地及び借地権の立体化に関する決定等があるとの説明がありました。

次に、土地区画整理審議会委員の中で、学識経験を有する者とあるが、特に必要な資格、要件はあるのかとの質問に対し、土地区画整理事業に精通している者ということで、各市の状況を見ると元国土庁の職員、商業会の役員、区画整理事業を担当したことのある元県の職員、土地の評価等の関係から金融機関の職員等が充てられているとの説明がありました。

さらに、議員として委員になるということはあるのかとの質問に対し、職歴に対し委嘱するものではないが、土地区画整理事業に堪能な方であれば、選任されるとの説明がありました。

また、選挙される委員8人について所有権者、借地権者のそれぞれの割合に応じて委員数を決めるとの説明があり、立候補者がいないという心配はないのかとの質問に対し、それぞれの権利者の権利を守るために立候補者が出るよう地元でPRしていきたいとの考えが示されました。

次に、費用の負担について説明を求めましたところ、基本事業費8億2900万円、その他公共施設管理者負担金、市単独で行う事業費、私鉄負担金合計で約15億3800万円。内訳としては、国費5億5120万円、県費3454万1000円、市費——これは公共施設管理者負担金、JR等の負担金を含めて9億5225万9000円であるとの説明がありました。

次に、附則において「公告の日から施行する」とあるが、具体的にい

つごろとなるか説明を求めましたところ、事業認可を得るための事業計画を現在策定中であり、できるならば本年中に県知事の認可をとりたい。認可がされ、館山市がそれを決定して公告となるので、できるならば63年中に公告をして施行していきたいとの説明がありました。

次に、本条例の議決後、議会に提出する案件はあるのかとの質問に対しまして、本条例の中ですべてが決められているし、また法律により施行されるものであるので、いまのところ特に議会の議決を求めるものはないが、関連して、用地の先行取得等の予算関係のものは考えられるとの説明がありました。

以上が、連合審査会の概要であります。

次に、建設経済委員会における審査の概要ですが、議案第41号昭和63年度館山市水道事業特別会計補正予算第1号について、本事業によりどの程度の期間の水源の確保ができると考えているか説明を求めましたところ、給水人口の伸び、給水量の伸び等からみて、10年間はこの水量でまかなえるのではないかと考えているとの説明がありました。

採決の結果、付託を受けました議案第38号、議案第39号及び議案第41号の各議案は、それぞれ全員一致をもって原案どおり可決すべきものと決しました。

以上で、建設経済委員会委員長報告を終わります。

○副議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

○11番（神田守隆君） 議案第39号館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事業施行条例について反対の討論を行います。

館山駅西口地区の土地区画整理事業は、平均減歩率20%という住民

の負担のもとに実施しようとするものであります。この減歩率自身、過小宅地対策などを考慮いたしますと、まだ市の公約どおり確実に実施が保証されたとは言いがたい状況でございます。

さらに、問題なのは、そもそもこの区画整理計画はだれのための計画かという点であります。現況は、区域内は住宅としてかなり使われているのでありますが、区画整理後はほとんどが商業地域とされ、住居地域はわずかに1、2区しかありません。駅前大通りの南側は渚銀座の商業地域に隣接しているので、道がよくなり便利になればそのまま渚銀座の商業地域に飲み込まれてしまうでしょう。駅前大通りの北側にも商業地域を1街区つくるといいますから、住宅に適切な土地はもうほとんどありません。これでは減歩という形で負担をした住民が結局はそこに住むことができなくなるしかありません。住民の住環境を改善するはずの区画整理ではありません。

最大の目的が駅前的大通りをつくり、駅前広場をつくるためならばこれまでの用地買収方式によるべきであります。区画整理によることがあったとしても、住民の負担は原則的に求めるべきではありません。たとえば、やむを得ないとしても、最小限度にするべきであります。

以上の点を主張し、反対討論いたします。

○副議長（福原 勤君） 以上で神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第38号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の制定について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 39 号 館山都市計画事業館山駅西口地区土地区画整理事業施行条例の制定について起立により採決いたします。

本案について委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○副議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本案は原案どおり可決されました。

次いで、議案第 41 号 昭和 63 年度館山市水道事業特別会計補正予算第 1 号について採決いたします。

本案についての委員長の報告は原案可決であります。

本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

請願書の上程

○副議長（福原 勤君） 日程第 3、請願第 3 号及び請願第 13 号の各請願を一括して議題といたします。

総務委員会委員長報告

○副議長（福原 勤君） ただいま議題となりました請願第 3 号は、62 年 6 月 19 日の本会議において、請願第 13 号は、去る 9 月 16 日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき、委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長小宮利夫君。御登壇願います。

（総務委員会委員長小宮利夫君登壇）

○総務委員会委員長（小宮利夫君） ただいま議題となりました請願第

3号及び請願第13号に係る総務委員会におきます審査の経過並びに結果について御報告申し上げます。

まず、請願第3号国家機密法反対の意見書の提出をもとめる請願書がありますが、本請願については、本委員会において継続審査となっていたものでありまして、一地方自治体の議会が論議できる問題ではないと考えるとの意見があり、採決の結果、賛成者がなく、不採択と決しました。

次に、請願第13号消費税（新大型間接税）反対の請願ですが、現在、国会で審議されようとしている問題でもあり、6月の議会において同趣旨の請願が不採択とされている経過もあるので、その辺も検討すべきであるとの意見があり、採決の結果、賛成者がなく、不採択と決しました。

以上、総務委員会委員長報告を終わります。

○副議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告がありますので、発言を許します。

11番議員神田守隆君。御登壇願います。

（11番議員神田守隆君登壇）

○11番（神田守隆君） 消費税反対の請願に対して賛成の意見を述べます。

総務委員会の審査の結果は、大変に残念な結果だと言わなければなりません。

私は、一般質問の中でもこの問題を取り上げ、4人家族で20万円、市民全体では新たに28億円もの負担をもたらすこと、また、市が実施している各種の市民サービスにも消費税をかけねばならず、市自身が納税義務者になること、さらに市財政にも歳入、歳出あわせて3億円規模の深刻な影響が懸念されることなどを指摘し、半澤市長に反対の態度表

明をするよう迫りました。御承知のとおりであります。

昨年の売上税のときには、県下28市でただ一人売上譲与税を率先計上し、市民の批判を浴びた市長であります。今回の消費税については賛否を明らかにしないで、推移を慎重に見守るといたしました。そうした中で、今、議会の姿勢が問われています。総務委員会の審査結果は、大変残念な結果だと言わなければなりません。館山市議会としては、市民の暮らしを守る立場から消費税に反対の決議をするよう強く求めるところであります。

さて、当市は、広大な農業地域を抱えております。消費税が農家にとって死活的に重要な問題だ、消費税が導入されたら農家は破産をしなければならぬのではないかという点について御指摘をしたいと思います。

農家世帯は、農業以外の収入のある兼業農家を含めて家計消費額は平均477万円であります。この農家に消費税3%が導入されますと、家計消費に対する消費税負担率2.3%——これは全国消費者団体連絡会が算定した数字でございますが、これを掛けると、農家の家計消費の消費税負担は約11万円になります。今と同じ生活をするのに、消費税で生活費が年間11万円ほど余計にかかることになるわけであります。

そればかりではありません。農業生産にも消費税を負担しなければなりません。例えば、米を生産するのに、農機具や農薬、肥料、種苗、水利などで10畝当たり9万647円かかりますが、これらにはすべて消費税がかかり、農家が購入するときにはその分値段が高くなります。この負担率を2.9%とすれば、2628円の消費税を農家は負担しなければなりません。平均耕作規模2.6畝の農家の場合、農業生産で約7万円の消費税負担となります。独占大企業の工業製品は消費税分を販売価格に上乗せできるのに対して、農業生産物は市場で価格が決まるため、農家はこれらの消費税分を売り値に上乗せするのが困難であります。結局、消費税分は身銭をきることになります。

生活費と農業生産とで農家は1戸当たり約18万円の消費税を負担することになると試算されます。生産者米価の切り下げと農産物自由化、そしてこの消費税導入で日本の農家はまさに破産しかねない状況だと言わなければなりません。

さらに、重大な問題は、消費税は間接税であるために、建前としては消費者から3%分の税金を預かったことになるため、売り上げのごまかしはもちろん、帳簿の記載が不完全な場合でも公金横領になり、懲役刑や告発など厳罰で取り締まることになることでもあります。その際、悪質の認定は税務署長が行いますから、たとえ1000円でも帳簿不完全なら悪質と認定されるおそれがあります。売り上げ3000万円未満の農家は年2回の消費税の申告納付は不要であります。年間売り上げが3000万円未満であることを証明するためにはやはり帳簿の記載を完全にしなければなりません。税務調査は強化され、農家は帳簿に頭を悩ますこととなります。同じことは零細な商店を営む商店主にもいえます。まさに、消費税は農家いじめ、零細業者いじめの悪税であります。

以上の点を特に主張し、消費税反対請願の賛成討論といたします。

○副議長（福原 勤君） 以上で11番議員神田守隆君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わりますが、通告をしない議員で討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、請願第3号国家機密法反対の意見書の提出をもとめる請願書について起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は不採択であります。

本請願を委員長の報告どおり不採択と決めますことに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○副議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。

次いで、請願第13号消費税（新大型間接税）反対の請願書について起立により採決いたします。

本請願についての委員長の報告は不採択であります。

本請願を委員長の報告どおり不採択と決めますことに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○副議長(福原 勤君) 起立多数であります。よって、本請願は不採択と決しました。

議長の報告

○副議長(福原 勤君) なお、この際申し上げます。

各常任委員会における陳情審査結果が報告されております。

お手元に配付の印刷書により御了承願います。

議案の上程

○副議長(福原 勤君) 日程第4、認定第1号乃至認定第7号昭和62年度館山市一般会計及び特別会計決算を一括して議題といたします。

決算審査特別委員会委員長報告

○副議長(福原 勤君) ただいま議題となりました各会計決算は、ともに去る9月19日の本会議において特別委員会を設置し、付託されたものであります。

よって、これより本決算に対する決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

決算審査特別委員会委員長渡辺昭夫君。御登壇願います。

(決算審査特別委員会委員長渡辺昭夫君登壇)

○決算審査特別委員会委員長(渡辺昭夫君) ただいま議題となりました認定第1号乃至認定第7号昭和62年度館山市一般会計及び特別会計決算に係る決算審査特別委員会における審査の経過並びに結果につきまして御報告申し上げます。

去る19日開会の本会議におきまして本委員会に付託されました各決算につきまして、21日委員会を招集し、慎重に審査を行いました。

審査にあたっては、提出された説明資料に基づいて市当局の考えをた

だし、あるいは処理状況の報告を求め、さらに今後改善すべき点、検討を要する事項を指摘、要望しつつ審査を行った次第であります。

以下、委員会におきます質疑応答等整理いたしまして、論議されました主なる点につきまして御報告申し上げます。

まず、一般会計・歳出であります。

総務費中、防災対策費において防災行政無線設置工事請負費 3960 万円が支出されておりますが、本事業については昭和 60 年度から 3 カ年事業で整備がなされたものであり、そのシステムの概要について説明を求めるとともに、継続事業の終了したことにより現段階では当対策は終了したと考えてよいか説明を求めましたところ、一応、津波対策としてはこれで打ち切りをし、今後運用していく中で問題があれば、その時点で対処していくとの説明がありました。

次に、電子計算機費として 6138 万円が支出されておりますが、本市は電子計算機の導入を早くから行い、業務の合理化等を積極的に図ってきており、全国的にも高い評価がされておりますが、今後においてもさらに推進することにより市民サービスの向上に努められたいとの要望をいたしました。

次に、第 3 款民生費であります。社会福祉振興基金助成金として 40 2 万 3000 円が支出されておりますが、この基金については、社会福祉協議会が市民の善意による寄附をもって基金を積み立て、その果実の運用により自主的な活動を行おうとするもので、市民から寄附のあったものについて同額を市が助成してきており、62 年度において目標の 5000 万円が積み立てられ、現在、福祉協議会においてその運用を検討しているところであるとの説明がありました。

次に、身体障害者日常生活用具給付扶助費として 70 万 2000 円が支出されておりますが、この対象品目について説明を求めるとともに、さらに、最近、身体障害者のための各種の製品が開発されているが、取り入れる考えはないか伺いましたところ、ケースワーカー等の家庭訪問、保健婦の活動、さらに民生委員の活動等を通じ、需要的確な把握に努め、現在の要綱の中で、積極的に対応していきたいとの考えが示されました。

次に、第4款衛生費であります。じん芥処理費、し尿処理費において汚染負荷量賦課金が合計で172万1000円支出されていますが、この支出の理由について説明を求めましたところ、公害健康補償法に基づき、全国規模で大気汚染防止法の規制対象になるばい煙の排出施設が負担金を拠出しているもので、個々の汚染物質と疾病との因果関係は確立されておらず、全国のばい煙排出施設を設置している事業者がそれぞれ負担をしている。負担割合としては、年度における総被害者の総補償額から地域割で単価を決定しており、62年度は単価が上がったために前年に比べ増額支出したとの説明がありました。

次に、第5款労働費であります。勤労者団体補助金として160万円が安房地区労働組合協議会に支出されておりますが、協議会を構成する27団体の中に、当市以外の団体が4団体含まれていることから、市費を支出するのは適当でなく、広域圏等での事業として検討すべきではないかとの意見がありました。

次に、第6款農林水産業費であります。畜産業費中、酪農振興事業資金利子補給金が年々減少してきていることをどうとらえているか、さらに畜産業の振興策についてたどりましたところ、酪農家数は減少している中で頭数は横ばいという状況から、経営が大型化の傾向にあり、ある意味では設備投資もすでになされてきていることから資金の利用が少なくなっているのではないかと理解している。さらに振興策については、難しい問題で、これといった抜本策は出ていないが、今後とも畜協あるいは畜産奨励委員とも十分協議し、検討を重ねていきたいとの考えが示されました。

次に、農地費中、公衆便所清掃委託料が支出され、これについては相浜の旧フラワーライン料金所付近の花つみ園に設置されているもので、従前は観光費に含まれていたが、施設の性格上、62年度から農地費で支出したものであるとの説明がありました。

関連して、各費目で同じような清掃委託料が支出されておるが、同じ清掃であるのでこれを一本化することが適当ではないのかとの指摘に対しまして、歳出については目的別に区分されているので結果としてはこのようになっているが、清掃という点からみれば同じ目的とも考えられ

るので、検討してみるとの説明がありました。

なお、これが契約にあたっては、同じようなものはまとめて委託先を決定しているとのことでありました。

次に、水産業費中、漁協合併促進事業補助金 5 万円が支出され、これについては昭和 53 年 9 月に富崎地区の漁協合併促進協議会を設置し、相浜漁協、布良漁協の合併について県、市ともども推進してきているもので、62 年度協議会は 2 回開催をしたとのことですが、さらに市全体の問題として将来の見通しはどうか説明を求めましたところ、現在、5 つの漁協があり、将来的には、これを一本化することは最も理想的な形であるが、とりあえず県営漁港、市営漁港の中での合併を促進したらどうかと考えている旨説明がありました。

次に、第 7 款商工費であります。館山市観光協会補助金については当初 790 万円の予算計上に対し 756 万円の支出となっているが、観光振興の観点から計上額どおりの支出をすべきではなかったのかとの指摘に対しまして、当初予算に計上した 790 万円のうち、50 万円については観光問題研究部会の行う花いっぱい運動に対しての補助であったが、最終的に 34 万円の支出となり、その 2 分の 1 を補助したことによるものであるとの説明がありました。

次に、第 8 款土木費であります。館山駅東口地区市街地再開発（準備）組合等補助金 100 万円が支出されておりますが、これについては駅前の北側の D、E 地区の研究グループが対象で、再開発事業の仕組み、その他についての研究と組合員の結束を固めるための活動に対する補助金であるとの説明がありました。

次に、第 9 款消防費であります。従前、消防委員会については、その構成員に市議会議員が加わっていたが、現在、構成員になっていないことについて、理由をただしましたところ、消防委員会については、現在、消防関係者 4 名、知識経験者 8 名により構成されており、議決機関である議会の議員が市の諮問機関の委員に属さない方が妥当であると考えられ、また議会からもそのような声があり、現在に至っているとの説明がありました。

次に、第 10 款教育費であります。各項目ごとに詳細に説明を求め

ました。特に、次代を担う児童生徒の教育という観点から、臨時職員でまかなわれているものや、あるいはその支出額が前年度、また当初予算に比較して少額になっているものについては、状況の説明を求めるとともに、予算計上時の内容と変更はなかったか、教育上支障を来たすことはなかったか詳細にたしました。

次に、社会教育費中、市民センター業務委託料の積算について説明を求めましたところ、市民センターの管理運営委託については、予算編成時点で人件費、物件費をそれぞれ積み上げで計算をして予算計上しており、実際に、その年度に入ると前年度の委託料の支出した残があるので、それらを勘案して支出額を決定をしているもので、決算額と実質額が異なる場合もあるとの説明がありました。

次に、一般会計歳入であります。

市税において不納欠損額、収入未済額が毎年度同じような額で固定化しているようにも見受けられるので、徴収には鋭意努力されているところではありますが、厳しい財政状況の中において、今後もさらに努力されたいとの意見がありました。

次に、国有提供施設等所在市町村助成交付金について説明を求めましたところ、法律では、国は毎年度予算で定める金額の範囲において交付することとなっており、56年度から据え置きになっている。自治省では64年度に増額要求をするという情報を得ているとの説明がありましたが、さらに、物価の上昇、固定資産の評価の実態からみて、据え置きになっているのは問題があるので、市長会等においても積極的に増額方、運動を展開されるよう要望いたしました。

次に、使用料について、各費目ごとに予算減額との増、減の理由について詳細に説明を求めました。

次に、寄附金の中で漁港整備事業寄附金として1264万9000余円が収入されていますが、これは各漁協からの寄附金でありまして、その事業内容と内訳について説明を求めるとともに、さらに事業費に対し一定の基準があるのか問いましたところ、国、県の補助を受けた残りの分について、あくまでも組合と市と話し合いをした中で、従来からの数字をもって協力を願っているものであるとの説明がありました。

次に、国民宿舎特別会計であります。62年度においては一般会計から1億円の貸し付けを行い起債の償還に充てているところでありますが、今後も貸し付けを行うことによって、支払い利息を少なくする考えはないか伺いましたところ、特別会計とはいえ市の懐であり、一般会計、特別会計を問わず連結決算ということでやっていこうと考え、市の決算残から一億円を貸し付けた。将来とも、毎年その程度のものを貸し付けすることによって借入金をなくしたいと考えている旨説明がありました。

次に、討論において、現在の厳しい状況の中で、本決算に示された結果に対しその努力を評価するものであるが、今後なお国庫補助金等の拡大に努力をされたい、不納欠損、収入未済額等、毎年固定化している感があるので改善されたい、農林水産業費、教育費については、さらに自主的な事業を積極的に取り入れていただきたい、国保会計については、療養給付費の抑制に努め、保険税の値上げをおさえていただきたい、水道事業会計については、水源開発等にさらに努力されたい、以上を要望し、認定に賛成するとの意見がありました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を御報告申し上げましたが、本決算については、予算議決の趣旨に沿っておおむねその目的を達し得たものと認め、採決の結果、付託を受けました認定第1号乃至第7号昭和62年度館山市一般会計並びに各特別会計決算につきましては全員一致をもってそれぞれ認定すべきものと決しました。

以上、決算審査特別委員会におきます審査の概要を申し上げまして、委員長報告を終わります。

○副議長（福原 勤君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

通告はありませんでした。討論ありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

- 副議長（福原 勤君） これより採決いたします。
採決は分割して行います。

まず、認定第1号一般会計決算について起立により採決いたします。
認定第1号についての委員長の報告は認定であります。

認定第1号を委員長の報告どおり認定することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

- 副議長（福原 勤君） 起立多数であります。よって、認定第1号一般会計決算は認定することに決しました。

次いで、認定第2号乃至認定第7号の各特別会計決算について一括して採決いたします。

認定第2号乃至認定第7号についての委員長報告は認定であります。

認定第2号乃至認定第7号を委員長の報告どおり認定することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

- 副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、認定第2号乃至認定第7号の各特別会計決算はいずれも認定することに決しました。

議案の上程

- 副議長（福原 勤君） 日程第5、議案第42号館山市教育委員会委員の任命についてを議題といたします。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

- 副議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

- 副議長（福原 勤君） 議案の説明を願います。

（市長半澤良一君登壇）

- 市長（半澤良一君） 議案第42号について御説明を申し上げます。
本市教育委員中、2名の方が昭和63年9月30日をもって任期満了

となりますので、現委員でございます福原 修さん、正木高朗さんの御両氏を引き続き任命いたしたいと存じますので、御審議をいただきたいと思います。

○副議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

議案第42号教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、議案第42号教育委員会委員の任命について同意を求める件は、これに同意することに決しました。

日程の追加

○副議長（福原 勤君） ただいま発議案第4号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦についてが提出されました。

この際、本案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案を日程に追加し、議題とすることに決しました。

議案の上程

○副議長（福原 勤君） 発議案第4号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦についてを議題といたします。

本案は生稻 陸君の一身上に関する事件でありますので、地方自治法第117条の規定により同君の退席を求めます。

（7番議員生稻 陸君退場）

議案の配付

○副議長（福原 勤君） 議案を配付いたさせます。

議案の配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○副議長（福原 勤君） 朗読は終わりました。

議案の内容説明

○副議長（福原 勤君） 提出者の説明を求めます。

（26番議員近藤好雄君登壇）

○26番（近藤好雄君） ただいま議題となりました発議案第4号農業委員会の委員となるべき学識経験者の推薦について提案理由を御説明申し上げます。

議会推薦の農業委員のうち、1名が辞職したことに伴いまして、その

後任として生稻 陸君を最適任者と認め推薦いたしたく、8名の賛成者を得まして本案を提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたしまして、提案理由の説明といたします。

○副議長（福原 勤君） 説明は終わりました。

質 疑 応 答

○副議長（福原 勤君） これより質疑を行います。

御質疑はありませんか。——御質疑なしと認めます。よって、質疑を終結いたします。

委員会付託の省略

○副議長（福原 勤君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託を省略いたしたいと思えます。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案については委員会の付託を省略することに決しました。

討 論

○副議長（福原 勤君） これより討論を行います。

討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって、討論を終結いたします。

採 決

○副議長（福原 勤君） これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○副議長（福原 勤君） 御異議なしと認めます。よって、本案は原案どおり可決されました。

（7番議員生稻 陸君入場）

閉 会 午後零時 10 分

◎副議長（福原 勤君） 以上で本定例会に付議されました案件は議了いたしました。

よって、これにて第 3 回市議会定例会を閉会いたします。

◎本日の会議に付した事件

- 1 議案第 38 号乃至議案第 42 号
- 1 請願第 3 号及び請願第 13 号
- 1 認定第 1 号乃至認定第 7 号
- 1 日程追加・発議案第 4 号

地方自治法第 123 条第 2 項の規定により署名する。

館山市議会議長 飯 田 義 男

館山市議会副議長 福 原 勤

館山市議会議員 山 口 康 雄

館山市議会議員 日 下 君 敏

